

個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実を図った体育学習

大分県大分市立明治小学校

全校児童数	1191名(男子649名 女子542名)		
全クラス数	44	教職員数	65名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	大分市立明野東小学校		
体育専科教員名		石川 信太郎	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力調査結果等から

- ・全国平均以上の項目は47/96(48.96%)であった。
- ・「20mシャトルラン」「50m走」「ボール投げ」が課題である。

◆生活習慣調査等から

- ・「体育の時間に運動することが楽しい」と答える児童の割合は90.6%であったが、児童数に対して施設が狭く、クラス数から合同体育をせざるを得ないため、運動量の確保が課題である。

2 取組の計画

- ①小中一貫教育の取組「大東ストレッチ」を朝の会で実施する。
- ②体育月目標を設定し、保護者に向けた体育通信で家庭と連携した取組を実践する。
- ③体育専科教員の指導法(場の設定や用具・ルールの工夫)を全職員で共有する。月1回のプロジェクト会議において、体力向上部員を中心に体育実技や授業に関する情報共有をする。
- ④休み時間に「チャレンジタイム」を設定し、体育委員会が企画・運営する運動に取り組む。

Do：実践内容

1 運動の日常化

小中一貫教育の取組「大東ストレッチ」を朝の会で毎朝実施する。

- ①1校1実践の取組を「大東ストレッチに毎朝取り組むこと」とし、100%の実施を目指した。
- ②体育授業や体育発表会(運動会)での準備体操を大東ストレッチに設定し、全校で取り組んだ。

2 家庭との連携

体育月目標を設定し、保護者に向けた体育通信で家庭と連携した取組を実践する。

- ①毎月「体力名人」に取り組んだ。(例：投げ方名人になろう)
- ②毎月体育通信を発行し、体力名人の取組に関わる内容のトレーニングを紹介した。

3 授業改善

体育専科教員の指導法(場の設定や用具・ルールの工夫)を全職員で共有する。月1回のプロジェクト会議において、体育部員を中心に体育実技や授業に関する情報共有をする。

- ①合同体育でもしっかりと運動量を確保できる工夫を共有した。
- ②1人1台タブレット端末を活用した。

4 運動の啓発

休み時間に「チャレンジタイム」を設定し、体育委員会が企画・運営する運動に取り組む。

- ①1学期は「走り幅跳び」を実施した。
- ②2学期は「投げる種目」を実施した。

●工夫したこと(&苦勞した点)

①運動の日常化

- ・実施するストレッチの項目を絞ったり、朝の歌に合わせて行ったりと、学級ごとに工夫して実施していた。

②家庭との連携

- ・学校家庭連絡システム「すぐー」のアンケート機能を活用し、体育通信で紹介した家庭でのトレーニングの実施状況を把握し、次号の体育通信でフィードバックした。

③授業改善

- ・「令和の日本型学校教育」の下、過大規模校における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った体育学習はどうあるべきか、というテーマで取り組んだ。3～6年生は全年でタブレット端末のワークシートを活用した。明治小では、多くの児童が一斉に運動をするため、1人1人への直接的指導が難しい状況であったが、児童は各自のタブレット端末で自分の課題やポイント等を確認しながら運動する姿が見られた。
- ・ロイノートでワークシートを提出させることで、評価に役立った。膨大な体育ファイルを集めることなく、業務のスリム化にもつながった。
- ・日本製鉄グラウンドでは2時間の枠での授業を組み、大人数でも運動量を確保できるよう、場づくりの工夫をしながら授業を行っている。

④運動の啓発

- ・「チャレンジタイム」で取り組んだ走り幅跳びは、学年ごとに記録上位者を放送で発表し、意欲付けを図った。
- ・昨年度から体育発表会において全校で投げる種目を実施し、「投げる」練習への意欲をもたせた。

Check：取組の成果

- ①全国平均以上の項目は51/96(53.13%)に上昇した。
- ②保護者アンケートで体力向上の取組への前向きな回答が多く見られた。

Action：今後の課題

- ①プレハブ校舎建築に伴い、休み時間の運動場使用に制限があるため、外遊びが日常的にできない。
- ②体育専科が不在の際に日本製鉄グラウンドでの授業をどのように準備・実施するのか検討する必要がある。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・苦手なことでも挑戦してみようという意欲の高まり
- ・集団の中でルールを守って活動することの楽しさや喜びを味わう
- ・学校と家庭が一体となって取り組める
- ・教職員の授業力向上

